



～お知らせ～



10月に入りめっきり過ごしやすくなりました。朝晩は冷えるようになってきたので体調の管理にご注意ください。

今月の6日（月）は旧暦の8月15日にあたり、夜には中秋の名月が昇ります。秋の夜長を明るく照らす十五夜のお月さまを見上げてみては如何でしょうか。
中秋の名月とは、月の満ち欠けをもとに1ヵ月の日付けを決める太陽太陰暦（旧暦）の8月15日の夜に見える月のことです。十五夜の月とも呼ばれます。
もともと旧暦では1年を3ヵ月ごとに分けて、1月～3月を春、4月～6月を夏、7月～9月を秋、10月～12月を冬としていて、秋の真ん中にあたる8月15日を中秋とし、その日に見える月を中秋の名月として愛でるようになったそうです。
この中秋の名月を愛でる習慣は平安時代に中国から伝わったとされており、現在でも中国では中秋節として祝日とされ重要な行事の一つとされています。

最近、よく耳にするのが用地業務の「DX」推進、「AI」の活用、「IT」や「ICT」技術の活用などなど。皆さんご存じだとは思いますが、今一度、ここで用語の意味を整理をしてみましょう。

まず、別格の「AI」から
AI（アーティフィシャル・インテリジェンス）とは、人工知能のことです。
コンピュータがデータを分析し、推論（知識を基に、新しい結論を得ること）や判断、最適化提案、課題定義や解決、学習（情報から将来使えそうな知識を見つけること）などを行う、人間の知的能力を模倣する技術を意味します。

「IT」
IT（インフォメーション・テクノロジー）とは、情報技術全般を指し、デジタル化することやデジタル機器の総称です。1990年代後半から家庭用PCと個人向けインターネット回線が普及したことからITという言葉が広まっていきました。IT化とは、IT（情報技術）を用いて業務プロセスを効率化することです。IT化により、手作業や紙ベースの処理などアナログな業務をデジタル化することで、データの収集や保管といった管理、アクセスなどが容易になります。これにより、書類の管理業務を削減できたり、機密書類の紛失等のミスを防ぐことができ、業務の効率化やコスト削減も可能です。
IT化は主に業務プロセスの効率化とコスト削減を目的としており、IT技術の導入に重点をおいた方法です。

「DX」
次に用地業務にかかる「DX」推進業務としてリモート立会などが提案されているDX（デジタル・トランスフォーメーション）とは、ビッグデータなどのデータとAIやITを始めとするデジタル技術を活用して、業務プロセスを改善してだけでなく、製品やサービス、ビジネスモデルそのものを変革するとともに、組織、企業文化、風土をも改革し、業務の効率化の確立を目指すものです。

そこで「DX」と「IT」の違い
DXとIT化は似ているようで明確な違いがあります。DXは組織全体で変革をめざすのに対し、IT化は特定の業務プロセスの効率化に焦点をあてます。
DXはビジネスモデルそのものの変革を目指し、新たな価値創出や顧客体験の革新を目的としています。一方、IT化は既存の業務プロセスに対しデジタルツールを用いて改善することが主な目的です。

DXとIT化の例

概要	例
DX	在宅ワークとWeb会議ツールの導入により、社内全体で迅速な顧客対応や顧客との商談数を増やすことに成功した
IT化	新しい会計ソフトを導入することで業務効率化につながった

DXは組織全体の業務変革をめざすことで、IT化は特定の業務に焦点を当て、デジタル化により業務の効率化をめざすことです。

最後にICTです。
ICT（インフォメーション・コミュニケーション・テクノロジー）とは、情報通信技術の略で、情報技術に通信（コミュニケーション）を加えたもので、コンピューターなどの情報技術と通信技術を組み合わせ情報や通信を活用する技術全般を指します。ITが情報技術そのものを指すのに対し、ICTはそれらを活用して人と人や人とモノが繋がること、そしてそのシステムやサービスまでを含みます。
ICTはデジタル技術そのものやその活用を指し、DXはICTなどのデジタル技術を駆使して、ビジネスモデルや顧客体験、組織のあり方そのものを根本的に変革する取り組みを指します。つまり、ICTはDXを実現するための手段の一つでありDXはICTを含むデジタル技術を基盤として、より大きな変革を目指す上位の概念です。

具体的に「ICT」と「DX」をまとめてみると

	目的・焦点	具体例	関係性
ICT	情報の取得、処理、保存、送信などの技術やシステム全般。情報伝達の効率化やコミュニケーションの活性化が主な目的です。	電子メール、Web会議システム、グループウェア、クラウドサービス、SNS、タブレット端末など。	デジタル技術そのものや、それらを活用する初期段階の取り組みを指します。
DX	デジタル技術を活用し、企業や社会を抜本的に変革すること。顧客のニーズに対応し、新たな価値を創造したり、競争優位性を確立したりすることを目指します。	導入したグループウェアを用いて業務プロセス全体を見直し、新しい働き方や事業モデルを生み出すこと。製造設備の稼働データを活用して新たな事業に人材を配置すること。	ICTを含むデジタル技術を「手段」として活用し、ビジネスモデル、業務プロセス、組織文化までを「変革」する取り組み。

デジタル庁では、「公共用地の取得に必要な一般補償の物件調査におけるLiDAR（ライダー）等の活用可能性の検証（埼玉県と連携）」として既に技術検証を実施しています。補償コン業務の物件調査や工損調査等において大きな課題となっている「権利者への負担」「手作業や手入力」「担い手不足」等を解消するためにも早急なDXの推進が求められています。当社でも人ごとではなく日々の仕事の見直しも必要なのでは？

人事異動 10月1日付け			
金沢支店 用地補償課長	川島 勢順	昇任	
本社 用地補償課 主任	眞部 尊也		
本社 用地補償課 主任	馬場 祐樹		

季節の変わり目です。体調の管理を ？



「ウィークリースタンスの徹底を」お願いします

- ①昼休みや16時以降開始の打合せは行わない
- ②休日明け日（月曜日等）は依頼の期限日としない
- ③休前日（金曜日）は新たな依頼をしない
- ④ノー残業デー（水曜日）は勤務時間外の依頼はしない
- ⑤ランチタイム・オーバーファイブ・ノーミーティング
- ⑥イブニング・ノーリクエスト（R5、6から）



〇必見！ ホームページをご覧ください！ 新たな情報等があれば教えて下さい

www.hokurikuyouchi.co.jp

〇お願い！ 「クロジカ」（旧Aipo）を活用しましょう